

報道関係各位

2025年5月20日

本資料は、報道関係者を対象としています。医療現場や一般の方々を対象とした医学的な情報提供や、プロモーションが目的のものではありません。なお、これらの資料は配信時当初の情報が掲載されており、最新の情報が反映されているとは限らないことをご了承ください。

内閣府および厚生労働省へ 「LGBT 理解増進法に基づく基本計画」に関する要望書を提出

～当事者が受診しやすい医療環境の整備や医療アクセス改善などを要望～

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:岩屋孝彦、以下「サノフィ」)を含む複数の製薬会社とLGBTQ+領域の企業研修等を行う株式会社アカルクを中心に構成される『LGBTQ+の医療における要望書タスクフォース』(以下、本タスクフォース)は、現在「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議」で連絡調整が行われている「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(以下、LGBT 理解増進法)に基づく基本計画において、医療にかかわる課題を主要な議題の一つとして位置づけ基本計画で必要な施策を講じていただくことを目的として、本日、「LGBT 理解増進法に基づく基本計画」に関する要望書を石破 茂 内閣総理大臣、福岡 資麿 厚生労働大臣、三原 じゅん子 内閣府特命担当大臣(こども政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画、共生・共助)宛てに提出しました。内容は以下の通りです。

要望の内容

1. LGBTQ+当事者が受診しやすい環境の整備

- 医療機関において多様なセクシュアリティの患者が受診しやすい環境が整うよう、多様な性的指向、ジェンダーアイデンティティに係る、医療現場でのガイドライン*1を作成すること。
- LGBTQ+当事者が差別を受けることなく、プライバシーが担保された環境で、安心して医療サービスを受けることができるよう、医療現場/医学教育において、必要な研修/カリキュラムが確実に実施されること。また医療機関/各大学の取組状況調査結果を明らかにすること。
- LGBTQ+当事者が受診を断られるケースも報告されており、安心して問い合わせができる相談窓口が設置されること。

2. 同性パートナーを含めた、患者本人が信頼する人が家族として認められるための施策の推進

- 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン解説編」(厚生労働省、平成30年3月改訂)*2、および「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス」(個人情報保護委員会と厚生労働省、平成29年4月14日(令和6年12月一部改正))*3が医療現場で周知されているか検証を行うとともに、医療機関で広く認知されるようにすること。また前述のガイドラインおよびガイダンスに、同性パートナーを含めた、患者本人が信頼する人が家族等の対象であると明記されること。

- 医療機関によって「家族等」の解釈が異なり、同性パートナーが家族と認められないケースがあるので、家族等の範囲が法的な親族関係に限らず、患者本人が信頼する人をキーパーソンとみなすことができることを、医療機関のウェブサイト等で周知されるようにすること。
- 国や地方自治体のホームページ等でパートナーシップ・ファミリーシップ証明書が活用できる医療機関の一覧化を進めること。

3. LGBTQ+当事者の健康格差、医療アクセス改善に向けた調査・研究の強化

- LGBTQ+の当事者においては、医療機関を受診する際の障壁がそれぞれ異なることを把握し、LGBTQ+当事者の健康格差、医療アクセスの課題を理解するため、調査・研究を推進すること(医療機関・職員を対象とした、理解度や環境整備状況に関する調査等)。

*1 LGBTQ+当事者が安心して受診できるための配慮の事例が記載されています：

- ① 『LGBTQ+の健康レポート』(日高庸晴(著)、医学書院)
- ② 『LGBTQ+ 医療現場での実践 Q&A』(武田裕子(著、編集)、吉田絵理子(著、編集)、宮田瑠珂(著、編集)、日本看護協会出版会)
- ③ 『医療者のためのLGBTQ講座』(吉田絵理子(編集)、針間克己(編集)、金久保祐介(編集)、久保田希(編集)、坂井雄貴(編集)、山下洋充(編集)、南山堂)

以下の方針が、多様な性的指向、ジェンダーアイデンティティに係る、医療現場でのガイドライン作成の際の参考になると考えます：

- ④ 「明日から使える！医療者のためのLGBT基礎講座 第2回」講義スライド(にじいろドクターズ代表 坂井雄貴)。2021

<https://slide.antaa.jp/article/view/a98fb4cb10aa4401#1>

[2025.03.10 アクセス]

- ⑤ 「LGBTQフレンドリーな医療機関となるための10か条(2023年5月版)」、金久保祐介(文責)、坂井雄貴、川島篤志、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 セクシュアルヘルス委員会

<https://www.primarycare-japan.com/files/news/news-886-1.pdf>

[2025.03.10 アクセス]

*2 厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン解説編」平成30年3月改訂。2018

<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197702.pdf> [2025.02.20 アクセス]

*3 厚生労働省 個人情報保護委員会「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス」平成29年4月14日(令和6年12月一部改正)。2017(2024)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001235843.pdf> [2025.02.20 アクセス]

背景

現在、LGBTQ+の当事者層の割合は9.7%^{*1}であると言われています。決して少なくない数のLGBTQ+当事者が存在する中、2023年6月には「LGBT理解増進法」が成立され、社会における多様なセクシュアリティや性自認を受け入れ、理解する動きが進んでいる一方で、いまだ解決されないさまざまな課題が残されており、当事者たちを取り巻く環境は安易なものではありません。

そのような現状は医療機関においても同様であり、認定NPO法人ReBitの「LGBTQ医療福祉調査2023」(有効回答数961人)によれば、医療関係者にセクシュアリティについて安心して話せないLGBTQ当事者は81.3%、過去10年に医療サービス等を利用した際に、LGBTQ当事者の66.1%、特にトランスジェンダー男性・女性は77.8%が、セクシュアリティに関連した困難を経験したことがあると回答^{*2}しています。

また、サノフィはグローバルの取り組み「A Million Conversations」の一部として2024年7月に5カ国11,489人を対象として「医療における信頼：健康の公平性に関するレポート」(日本の有効回答数2,533人)^{*3}を実施しました。

結果は、LGBTQ+当事者の55%が「医療提供者への信頼を失うような医療経験をしたことがある」、50%が「医療制度全般への信頼を失うような医療経験をしたことがある」と回答したのに対し、全体ではそれぞれ43%、37%となっており、LGBTQ+当事者は、非当事者よりも医療提供者および医療制度に対する信頼を失う経験が多いことが分かっています。

上記の内容からも、LGBTQ+当事者が安心して受診し適切な治療が受けられるよう、日本における医療機関の環境整備を進めることは急務です。

また多様な価値観を受け入れ、患者と医療者が協力しながらより良い医療をつくり上げていくことが、LGBTQ+当事者のみならず、多様なバックグラウンドを持つ誰にとっても安心できるインクルーシブな医療環境の実現につながると考え、今回の要望書の提出に至りました。

*1 電通「LGBTQ+調査 2023」<https://www.group.dentsu.com/jp/news/release/pdf-cms/2023046-1019.pdf>
[2025.02.20 アクセス]

*2 認定 NPO 法人 ReBit「LGBTQ 医療福祉調査 2023」<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000047512.html> [2025.02.20 アクセス]

*3 サノフィ「健康の公平性に関するレポート」[健康の公平性に関するレポート](#)[2025.02.20 アクセス]

A Million Conversations とは

「A Million Conversations」は、LGBTQ+、女性、障がい者、少数民族など全体に占める割合が人口比率より低い属性の人々と医療関係者との信頼関係の構築を目標に掲げ、2030 年まで継続して実施するサノフィの取り組みです。

サノフィの支援で行われた LGBTQ+、女性、障がい者、少数民族など全体に占める割合が人口比率より低い属性にある人々に対して、医療体制への信頼を評価した初のグローバル調査によると、このような属性の人々は医療への信頼感が低く、75%近くが信頼が揺らぐような経験をしたことがあると回答しました。また、調査ではこうした属性にある患者さんについて、その 59%が多様な背景をもつ医療従事者と接したいと考えていることが明らかになっています。

A Million Conversations の取り組みでは、①マイノリティの人々と医療関係者を巻き込んだテーマを定めた対話型イベントの実施、②その対話をもとにさらに研究を深め、今後の改善策を検討・提言、③多様な属性の人々がヘルスケア産業に参画することを促すグローバルな奨学金制度(サノフィ次世代奨学金)を実施しています。

サノフィについて

サノフィは、人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する、というゆるぎない使命を原動力に進み続ける革新的でグローバルなヘルスケア企業です。約 100 カ国の社員は、医療を変革し、不可能を可能に変えるため、日々研鑽に努めています。私たちは、社会的責任と持続可能性を企業の本質とし、画期的な医薬品や生命を守るワクチンを開発し、世界何百万もの人々に届けていきます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。